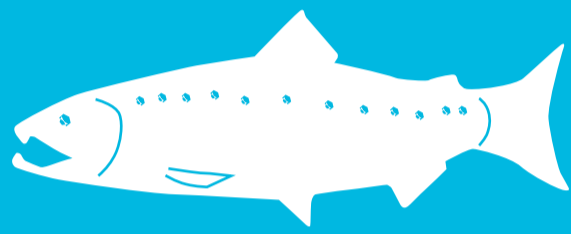


# サケの上手な育て方



公益社団法人 高崎青年会議所

サケは川で生まれると、体長 10cm になろうかというころ海に出て、3年から4年に渡って北太平洋を回遊します。その後産卵のため、自分の生まれた川へ、絶対に間違えずに帰ってきます。そして命がけで川をさかのぼり、最後の力をふりしぼって産卵し、卵を守りながら息絶えます。

サケの稚魚放流事業を通して、わたしたちが子どもたちに伝えたいことは二つあります。

ひとつは、わたしたちが暮らす環境を守ることの大切さです。

最近の研究で、サケは匂いに非常に敏感で、生まれ故郷の川に戻って来られるのは、川の水の匂いが関係しているらしいということがわかってきました。子ども達が抱く「自分で育てたサケが帰って来られるように」という純粋な気持ちは、きっと大人が言葉で説明する何倍もの説得力で、自然を大切に想う心を育ててくれることでしょう。

もうひとつは、サケが故郷のことを決して忘れず、命をかけて次の世代へと受け継いでいることです。

生まれてからほとんどの年月を、広い太平洋を自由に泳ぎ回って過ごしていたにも関わらず、次の世代へ命をつなぐ産卵という大仕事を、過酷な旅を経なければ辿り着けない生まれ故郷の川で行います。全ての力を遡上に注ぐべく消化機能を捨て去り、危険を省みずに川をさかのぼり、体を傷つけながら川底を掘り返し、最後の力を振り絞って産卵し、卵を守りながら力つき、そして果てます。

サケが「命を賭けても生まれ故郷の美しい川を子どもに見せたい」と思っているかどうかはわかりません。しかしわたしたちは、その行動から何かを感じ、学びとることが出来ます。

自分が生まれた街や環境を、次の世代により良い形を受け継ぐこと、その責任を果たすためにやるべきことを全力でやっていくこと。大切なことをサケが教えてくれている気がしてなりません。



## はじめに

サケは成長すると、川を下り海に出ていきます。広い世界を旅した後、子どもを産むためにふるさとの川へ戻ってきます。

川をさかのぼるのはとても大変ですが、それでも川を登って来るのは、サケが産まれた場所をとても大切にしているからです。

親サケが命をかけて伝えてきたからこそ、子ども達も大人になった時、同じようにふるさとへと戻ってくるのです。

わたしたちは、そのことを考えてもらいたくてみんなと一緒にサケを育てることにしました。



## サケの上手な育て方

- 1: 太陽の光に直接当たないようにしましょう
- 2: 水そうやコップはまわりを暗くしておくほうがよいです  
(ただしエサを食べるようになるまでの期間)
- 3: 卵からサケの赤ちゃんが出てきてからエサを食べはじめまでの間は魚が横になっていますが、外から叩いたり、水をかき回したりしないようにしましょう
- 4: 水の温度は 10℃位が適温です。  
水が凍らないかぎり魚は死にません。温度が低いと成長が遅く、温度が高過ぎると死んでしまうことがあります (15℃以上)
- 5: ヒーターを使わない場合は、家の中で温度差の少ないところに置きましょう。
- 6: 水道の水は汲んで1日程度置いてから使いましょう。
- 7: 卵は大切に扱きましょう。



発眼卵

